

学校法人 鉄蕉館

亀田医療大学だより

第5号
2017年4月1日発行

Contents

- ・ 理事長挨拶 “来たるべきグローバル社会に向けて”
- ・ 学長挨拶 “就任2年目にあたって”
- ・ 平成28年度のあゆみ



HEART



来たるべきグローバル社会に向けて

日本は2010年以降、人口減少社会に突入しました。しかし、高齢者人口はまだ当分の間実増するため、医療ニーズも増加していくことでしょう。一方、長年にわたり低出生率が続いたため、若年者人口が急激に減少しています。そのため、これまでも人材確保が難しかった医療、介護に加え、今後はさまざまな分野において人手不足が問題となることでしょう。

このままでは、海外からの人材確保なしに事業継続が困難な状況となります。そこで学校法人鉄蕉館では、海外からの優秀な学生を積極的に受け入れ、来たるべきグローバル社会で活躍できる視点とその感性を備えた医療者を育成するためのプログラム、および海外の大学との交換留学制度や語学研修制度の充実などの計画を積極的に進めているところです。

現在、グループの中核をなす亀田メディカルセンターは、すでに幾つかの海外プロジェクトをスタートしていますが、こうしたプロジェクトにも積極的に参加できるような、能動的で好奇心旺盛な学生達に多数入学していただきたいと思っております。

また、人工知能やIT技術を活用した診断システムや遠隔医療などの技術革新が急激に進む中、医師や看護師の業務も大きく変わっていくことが予想されます。しかし、どのように時代が変わろうとも、患者さまに寄り添う看護の本質は決して変わりません。むしろグローバル社会やAI技術が進めば進むほど、日本が誇る「おもてなし」の心が重要となります。

亀田医療大学は、日本の素晴らしいところを世界に発信すると共に、グローバルスタンダードを身につけた世界で活躍できる医療者育成に全力で取り組んでゆく所存です。

学校法人鉄蕉館理事長 亀田 省吾



就任2年目にあたって



亀田医療大学は本年3月に第2期生77名が学位記授与式を終え卒業しました。本学卒業生は世の中には第1期生と合わせてまだ150名程度しか活躍していませんが、いずれは大きな集団になっていきます。ぜひ先輩後輩達が力を合わせて、どこからも評判のよい有能な集団であるという亀田医療大学ブランドを築いて行って頂きたいと思っております。そしてこの度、第6期生として80数名の新入生を迎えることができました。ここ数年、国内には数多くの看護大学、看護学部が新設され、18歳人口の減少とも相まって多くの大学が学生確保に四苦八苦している中、本学が入学定員を充足できたことは非常にありがたいことです。もちろん過信・油断は禁物ですが、これも全国有数の亀田メディカルセンターと一体化した本学の実践重視の看護教育に対する評価が定着しつつあるものと理解しております。また本年度から本学のキャッチフレーズとして、“Enterprising Spirit”という文言を採用することに致しました。日本語でいえば進取の気性ですが、幕末、亀田家の先祖は進取の気性を持ってこの鴨川の地に、現在法人名となっている“鉄蕉館”という蘭学塾を開設しました。我々もその伝統を引き継ぎ、“Enterprising Spirit”を持った人材を育成し、地域や国内にとどまらず、世界に通用する看護師養成に努めていきたいと思っております。

不本意ながらしばらく頓挫していた大学院設置計画も再稼働を行い、平成31年4月開設に向けて準備を始めます。そして大学・大学生としても一つの大事な精神である“Research Mind”を生かせる環境作りに邁進して行きたいと思っております。

どうか関係ある皆様方のご理解と、ご支援を何卒よろしくお願い致します。学長就任2年目に当たりご挨拶とさせていただきます。

亀田医療大学学長 橋本 裕二

平成28年度のあゆみ

2016.04 ▶▶▶ 2016.11

4/1 橋本学長就任

1期生76名を排出し、開学5年目を迎えた亀田医療大学に亀田総合病院循環器内科主任部長の橋本裕二氏が本学学長として就任しました。

4/6 入学式

学生会館ミズキホールにて、第5期生80名（女性57名、男性23名）の入学式を挙行了しました。

4/11 新入生歓迎会

自治会主催による新入生歓迎会では、大学紹介・部活紹介・レクリエーションなどが行われました。

5/28 スポーツ大会の開催

学生自治会が中心となり、スポーツ大会を開催しました。リレー、綱引き、バレーボール、バスケットボールなど全8種目の競技を4チームに分かれて競い合い1日中スポーツを楽しみました。



2016.04 ▶▶▶ 2016.06

5/31 献血の実施

多くの学生が献血に積極的に協力しました。



6/17 ピア部による講義

亀田医療大学ピア部の学生が地元の長狭高校に出向いて、高校生に講義を行いました。若者同士、笑顔あふれる交流となりました。



6/18 勝浦市の守谷海岸で行われた「第3回勝浦スイムフェスタ」に水泳部が参加。

個人750m女子レースに出場した中川さん（2年生）江口さん（3年生）が優勝、準優勝を獲得。岩田さん（3年生）が入賞しました。



6/25 卒業生の集い

⊕ 本学を巣立った1期生のホームカミングデイ。社会に出た卒業生が集い、新しい職場での近況報告などを行いました。



6/11 平成28年度 実習指導者研修会の開講

⊕ 看護教育の重要科目である実習を受け入れていただいている施設で実習指導を担当される看護職を対象とした研修会が、今年度も開催され、11月までの全8日間コースの開講式が行われました。

6/28 公民館講座「見たり 聞いたり 安房の国」開催

⊕ 安房地区公民館連絡協議会主催の講座にて、地域連携室長の新田教授による「安房で行う看護の大学教育」についての講演が行われました。

6/29 津波避難訓練の実施

⊕ 恒例となっている津波避難訓練を地域の方たちと共に実施しました。本学屋上への避難訓練がかなり定着してきました。

7/14 まるごみ表彰

⊕ 日本渚100選 アオウミガメの産卵地としても知られる鴨川の海岸清掃に協力している本学のボランティアサークルが表彰されました。



7/17 Kameda Cup2016運営支援

⊕ 亀田メディカルセンター主催の医療従事者の為のサーフィン大会が今年も実施されました。特に今年は5周年記念大会として、全国から200名を超える参加者が集い、盛会を極めました。

亀田医療大学からも多くの職員・学生が運営スタッフとして、病院スタッフや地元商工会、ジャッジを担当する地元プロサーファーの皆様と協力して、会を盛り上げました。

学生が企画運営する人気のビーサン飛ばし大会にもスポンサーが付き、更に多くの親子に参加頂きました。選手として参加した4年生の齊藤さんはロングボードA部門で2年ぶりのチャンピオンに輝きました。



7/24 オープンキャンパスの開催

⊕ 本年度のオープンキャンパスは、入学体験コース（講義+演習）、キャンパスツアー&選べるイベントコース、キャンパスツアー&実習病院見学コースの3種類のコースを全8回実施しました。

8/8 鴨川スカイランタン

⊕ 鴨川市青年会議所主催の町おこしイベント“海辺のスカイランタン”の運営支援を行いました。



8/9、8/10 長狭高校医療コースシャドー体験の実施

⊕ 地域連携の一環として行っている千葉県立長狭高校医療・福祉コースの医療者育成支援として、亀田病院でのシャドー体験を実施しました。

当コースは、3年間のプログラムで、高校へ出向いての出張講義や大学実習室での医療体験を経て、将来希望する職種のスタッフに1日同行体験ができるようになっています。



8/23、8/24 東京都立富士高校/付属中学校サマーキャンプの実施

⊕ 医療分野に興味を抱いている生徒を対象とした1泊2日のサマーキャンプを実施しました。看護学生との交流の他、病院での医療職体験やシミュレーションセンターでの技術体験を行いました。



9/3 市民公開講座の実施

⊕ 本学地域連携室主催による市民公開講座にて深谷教授による「突然人が倒れた！～助けられるか否かはあなたの行動次第～」の講義を実施しました。

一次救命処置の必要性と心肺蘇生法とAEDの使い方、異常の気づき方などについて説明がなされました。

9/20～1/14 基礎看護学臨地実習Ⅱ(2年生)の実施

⊕ 受け持ちの患者さまを一人の生活者としてとらえ、その人の日常生活に関わる援助を通して、看護の役割を学ぶ実習を行いました。

9/20～2/24 領域別看護実習(3年生)の実施

⊕ 看護の各領域に分かれて、それぞれの分野の看護活動を深く学ぶ実習を行いました。



9/30 映画会「いっぺさ！鴨川シアター」開催

⊕ 本学ミズキホールを使用しての市民向け映画上映は、10回目を記念して「あん」の上映が実施されました。過去最多の273名にご来場いただきました。

10/1 大学図書館の一般開放時間の拡大

⊕ 本学図書館の開放時間が拡大され、夜は21:00（土曜日は17:00）まで利用できるようになりました。

以後、学生のみならず地域の医療従事者にもご活用いただいております。

10/3～11/11 地域看護学臨地実習(4年生)の実施

⊕ 地域の保健・医療・福祉・学校保健活動を通じて、地域における看護活動の展開について学ぶ実習を行いました。

10/17、11/18 看護の統合と実践臨地実習(4年生)の実施

⊕ これまでに学んだ知識と技術を統合して、複数のクライアントのケアを行い、病棟看護チームの一員として安全で質の高い看護提供の必要性について学びました。

10/27 ハラスメント研修の実施

⊕ FD/SD研修としてハラスメント研修を実施しました。

10/29、10/30 大学祭「亀咲祭」の開催

⊕ 本館では医療や健康に関する講義や発表、看護体験、講習会などが行われ、グラウンドのステージでは、有志によるライブやダンス、模擬店による食べ物の販売や屋内運動場ではバザーなど様々な催しものが行われ、多くの来場者で賑わいました。



11/9 「高齢者向け新体力測定」の実施

⊕ ～高齢者との交流を通しての学び～

2年生の必修科目「高齢者看護学概論」では、高齢者を理解し適切な看護を実践するための理論と技術を学ぶ為、「高齢者向け新体力

力測定」の実施と高齢者との交流を学習目標とする学内演習を行っています。今年も鴨川市福祉課と老人クラブのご協力を得て楽しい学びができました。

11/26 看護研究発表会の開催

4年生の研究ゼミナール発表会が11月26日に行われました。2期生にとっては4年間の集大成となる研究発表会に、全員、力が入りました。

発表は、領域やテーマ毎に分けられ一人10分づつ行われました。



12/6 臓器移植講演会の開催

千葉県移植臓器コーディネーターの宮崎麻里子氏（国立病院機構千葉東病院）を講師としてお招きし、移植医療についての講演会を行いました。



12/15、12/16 第1回ジャパン・ユース・フォーラムへの参加

全国14の地域・団体を代表する支援者が集まる第1回ジャパン・ユース・フォーラムにピア部が参加しました。

思春期から青年期にかけて若者たちが直面する問題について、若者たち自身による検討と発表が行われました。

12/18 前原海岸活性化の学生向けシンポジウムへの参加

鴨川市が推進している前原海岸の新しい活用に向け、市内の学生が集まり、シンポジウムを行いました。学生目線の意見と討論では、海外での事例等を挙げながら学生ならではの良いアイデアが出ておりました。

2/16 錦州医科大学来学

今後の国際交流を目的に来学されました。

2016.11 ▶▶▶ 2017.03

2/26 ~ 3/2 シンガポール演習

3年生の国際看護学演習でシンガポールに行きました。

3/16 平成28年度研究交流会の開催

本学の教員が取り組んでいる研究テーマについて、発表と意見交換を行いました。これからの医療と看護について学生も交えた活発な討論が行われました。

3/16 グラム大学来学

今後の国際交流を目的にグラム大学の国際交流責任者と看護学部長が来学されました。亀田病院含め、どのような交流が可能か話し合い、前向きに検討をしていくこととなりました。



3/9 2期生学位記授与式

2期生の学位記授与式が執り行われ、77名の学生に学位を授与しました。



3/10 ペーパーオブザイヤー表彰の実施

研究論文の優秀者9名に対し橋本裕二総合研究所長より表彰が行われました。



クローズアップ

国際看護学 シンガポール演習

本学では、国際的な視野から健康課題を考え、文化背景の異なる様々な人々を理解できる人材を育成するため、3年次の国際看護学でシンガポール演習を行っています。今回は2月に行われた演習についてご紹介します。

シンガポールの医療

シンガポールは、医療ツーリズムとして人気の高い国です。医療ツーリズムとは、医療、それも特別な医療を受けるために外国に行くことを言います。アジアでも高水準の医療を提供できる国として、シンガポールは様々な国から医療ツーリズム目的の観光客をひきつけています。美しい街並みや多民族国家として、英語が話せる国民が多いというのも同国の強みです。国の医療システムや病院の医療体制（公立・私立）等も我が国とは大きく違っており、文化背景の異なる患者さんへの看護では多くの学びがありました。

学習の流れは次の通りです。

- 1 学内の事前学習で学生自身の演習課題を決め、それについての事前に質問等を整理しておく。
- 2 現地に各医療施設の見学、質疑応答を行う。
※現地の病院見学では、百聞は一見に如かずを実感しました。
- 3 病院見学後にグループ単位で、印象に残ったこと、感じたことを話し合って学びを共有する。
- 4 全体交流会では異なる施設を見学した各グループメンバーで、ワールドカフェスタイルの発表を行う。
- 5 帰国後は、個々にレポートを作成し、一人一人の学びを提出する。



見学病院

- ①KhooTeck Puat Hospital ②Yishun Community Hospital ③KK Women's and

Children's等、6施設。

演習による学生の「学び」には、以下のようなことがありました。

- ・宗教の異なる様々な人たちに、それぞれに対応する入院生活者への工夫（言語・食事など）がある事
- ・公的扶助による医療、私費による高額支払者への対応など、対象者の医療ニーズに応じて入院環境が大きく異なる事
- ・精神病院やリハビリ病棟での生活復帰トレーニング（病院内売店で働く、退院後の料理訓練など）きめ細やかな生活訓練の導入
- ・患者ごとの使用言語、食事の好みのベットサイド表示、高齢者を考慮した大きな文字やイラスト表示などの工夫
- ・緑の自然環境を治療や癒しに取り入れた入院環境の整備
- ・街の人々との触れ合いから感じた親切やさしさの実感
- ・高齢者には早すぎる信号の変わり方、バリアフリーの整備が進んでいない街路環境状況 etc



またこの演習では、現地学生との交流も行い友好を深めました。

来年度以降は、演習先にカナダや中国も加えて、演習先を学生の皆さんが選択して参加できるように準備を進めております。楽しみにしてください。

